

令和 2 年 5 月 28 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H00991

研究課題名(和文)くらしと仕事に関するパネル分析

研究課題名(英文)Panel analysis of life and work

研究代表者

小塩 隆士(Oshio, Takashi)

一橋大学・経済研究所・教授

研究者番号：50268132

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 28,860,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、これまで3回実施してきた大規模パネル調査である「くらしと仕事に関するパネル調査」(LOSEF: Longitudinal Survey on Employment and Fertility)の第4回調査を実施するとともに、同調査やその他関連するパネル調査から得られる豊富な履歴情報を活用することにより、出産・子育ての行動分析、社会経済的地位の親子間継承、主観的厚生の変動要因、就業行動の動学的メカニズム、貧困リスクの発生要因、引退・介護のライフスタイル・健康への影響等、「くらしと仕事」に関するパネル分析を行い、その結果に基づいて社会的厚生の向上につながる効果的な政策提言を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

最近では、人々の経済行動や政策・制度変更の効果を分析する場合、同一個人の行動を数回にわたって追跡し、その結果を分析するパネル分析が主流となっている。しかし、国内ではパネル調査の規模や対象範囲が限定的なこともあり、研究蓄積は進んでいない。本研究では、このパネル分析を全面的に展開した。さらに、このパネル分析の結果、健康の社会的決定要因など学際的な知見も数多く得た。

研究成果の概要(英文)：This study conducted the fourth wave of the Longitudinal Survey on Employment and Fertility (LOSEF), following three waves conducted under the previous KAKENHI research projects. Based on a rich set of information obtained from the LOSEF and other longitudinal survey data, we examined the dynamics of childbirth and childcare, the association between pension benefits and elderly's labor force participation, social determinants of health, and other related issues. We published the outputs of these studies in the forms of journal articles, books, as well as presentations at various academic conferences. In addition, some members of this research project made policy proposals based on the findings obtained from this research, especially regarding the policy reforms to enhance the elderly labor force participation.

研究分野：公共経済学

キーワード：主観的厚生 引退 貧困 就業 子育て

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 1. 研究開始当初の背景

最近では、人々の経済行動や政策・制度変更の効果を分析する場合、パネル分析が主流となっている。同一時点(クロスセクション)における各経済変数の相関を見るだけでは不十分であり、クロスセクション分析で観測される相関関係には、観測できない要因の影響が反映され、バイアスが掛かっている可能性が高いからである。これに対して、パネル分析には、時点間で変化しない個人の属性、いわゆる固定効果の影響が分析できるなどの長所があり、経済変数間の相互関係や政策・制度変更が人々の行動に及ぼす効果をより正確に把握できる。

こうしたパネル分析については、労働経済学、公共経済学、社会疫学など幅広い分野で実証研究が数多く蓄積されている。しかし、国内ではパネル調査の規模や対象範囲が限定的なこともあり、研究蓄積はこれからといったところである。さらに、所得や学歴など社会経済的地位の世代間継承のメカニズム解明も、社会階層の固定化や貧困の連鎖といった社会問題の深刻化が危惧される中で、パネル分析が取り組むべき重要な研究課題となっている。

## 2. 研究の目的

本研究は、参加メンバーが特別推進研究及び基盤研究(A)の下でこれまで3回実施してきた大規模パネル調査である「くらしと仕事に関するパネル調査」(LOSEF: Longitudinal Survey on Employment and Fertility)の第4回調査を実施するとともに、同調査やその他関連するパネル調査から得られる豊富な履歴情報を活用することにより、出産・子育ての行動分析、社会経済的地位の親子間継承、主観的厚生の変動要因、就業行動の動学的メカニズム、貧困リスクの発生要因、引退・介護のライフスタイル・健康への影響等、「くらしと仕事」に関するパネル分析を行い、その結果に基づいて社会的厚生の上昇につながる効果的な政策提言を行うことを目的としている。

## 3. 研究の方法

上記LOSEF調査を実施し、その結果に基づく実証分析を行うほか、厚生労働省「中高年者縦断調査」など、その他の定評ある大規模社会調査を用いて多様なアプローチに基づく実証分析を行った。

## 4. 研究成果

本研究で得られた主な成果は、以下のようにまとめられる。

### (1) ワーク・ライフ・バランスと労働者の健康

この研究からは、以下の3点が明らかになった。第1に、仕事上の問題が家庭生活に及ぼす軋轢(work-to-life conflict; WFC)と健康や健康行動との関係は、異時点間で変化しない個人属性の影響を取り除いても確認できる。ただし、クロスセクション分析や前向きコホート分析の結果に比べると、その度合いは幾分か小さくなる。第2に、WFCは、仕事上のさまざまな問題が労働者のメンタルヘルスに及ぼす影響のうち、無視できない部分を媒介している。その媒介効果は、仕事に対する要求度や要請される努力の場合、とりわけ大きい。第3に、WFCと健康・健康行動との関係は、男女間でほとんど変わらないが、WFCの媒介効果は女性のほうが男性より幾分か大きくなっている。

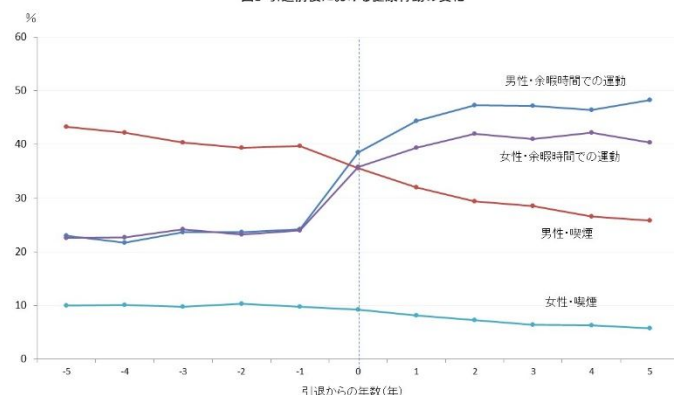
ここでは、ワーク・ライフ・バランスの欠如が健康によってマイナス要因であることが、固定効果分析でも確認され、ワーク・ライフ・バランスが雇用者の健康維持という観点からも重要な政策課題であることが裏付けられた格好になっている。さらに、ワーク・ライフ・バランスと健康との相関や、ワーク・ライフ・バランスが仕事上の問題がもたらす心理的な負担を媒介する度合いは女性のほうが強く、ワーク・ライフ・バランスの改善は女性にとってより差し迫った政策課題になっていることが示唆される。

しかも、仕事に対する要求度や努力といった仕事ストレスサーの場合は、ワーク・ライフ・バランスがその影響を媒介する度合いが大きい。女性にも男性と同じような役割を求めるようになるということであれば、ワーク・ライフ・バランスの改善は女性の健康維持にとってますます重要となる。

### (2) 中高年の健康・健康行動のダイナミズム

この研究からは、以下の3点が明らかになった。第1に、引退はとりわけ男性の場合、健康や健康状態の非連続的な変化を即座にもたらすとともに、それらの変化のペースにも影響を及ぼす(図1)。例えば、余暇時間に運動する確率は引退を契機にしてジャン

図1 引退前後における健康行動の変化



プするが、加齢による低下ペースも引退後に緩和する。第2に、学歴による健康格差は加齢とともに拡大し、「累積的不利仮説」が支持される形になっている。第3に、学歴による健康格差拡大を媒介する要因としては、余暇時間での運動や喫煙といった健康行動だけでなく、社会活動への参加の有無も重要である。

引退は健康に対して基本的にプラスに作用する、というのがこの研究で得られた基本的知見である。人々は、引退をきっかけとしてライフスタイルを健康的な方向に変える傾向がある。中高年層の健康増進策を考える場合は、そこが狙い目になるだろう。時間的な自由度が高まる中高年層をターゲットとした健康促進策を地方自治体等が中心となって展開すれば、人々の意識と相俟って大きな効果を生む可能性がある。

一方、学歴による健康格差が加齢とともに拡大することは、残念な事実だと言わざるを得ない。ここでは、学歴を高卒以上と未満に二分しているが、とりわけ所得等の面で教育を受けることが不利になった層に対する支援は、高齢時における健康格差拡大の予防策としても重要であることが示唆される。

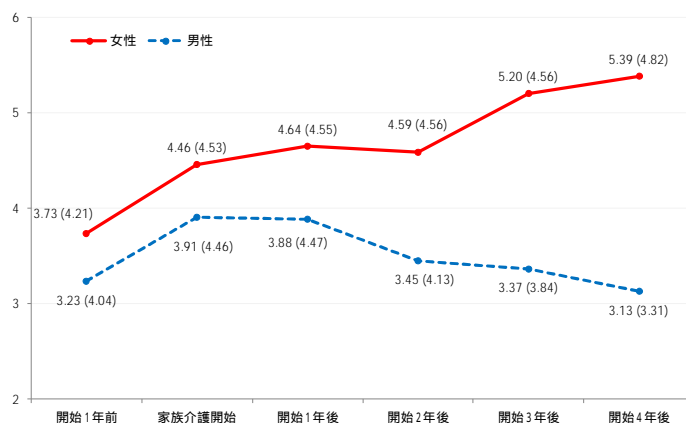
### (3) 家族介護とメンタルヘルス

この研究からは、以下の3点が明らかになった。第1に、家族介護に携わることは、中高年のメンタルヘルスにとって最も重要なライフ・イベントである。その重要性は、配偶者との離死別や失業といったそのほかの要因を凌駕する。第2に、家族介護の長期化は、とりわけ女性の介護者にとってメンタルヘルスを悪化させる傾向がある(図2)。第3に、介護期間の長期化に伴うメンタルヘルスの悪化は、介護の在り方に大きく左右される。外での仕事を辞め、同居する家族のために長時間介護を続けると、介護者のメンタルヘルスは悪化の一途を辿る。

要介護者の大幅な増加、「地域包括ケアシステム」における居宅介護への依存度の高まりを考えると、介護者のメンタルヘルスの問題は今後なかなか改善しないだろう。公的な介護サービスの在り方だけでなく、家族介護者のメンタルヘルスのケアも、介護政策における重要な課題になることがこの研究から示唆されることである。

介護者支援の在り方についても、政策的に支援する余地は大きい。平均余命の延伸によって介護期間の長期化も予想されるが、介護者が家庭内に閉じ込めり、社会的に孤立した形で介護に没頭せざるを得ない状況を回避することを政策的に目指すべきである。家族介護への依存を続けざるをえないのであれば、公的な居宅サービスの拡充や家族介護者のメンタル・サポート、社会とのつながりの維持などの対応が必要となる。

図2 介護期間の長期化に伴うK6スコアの変化



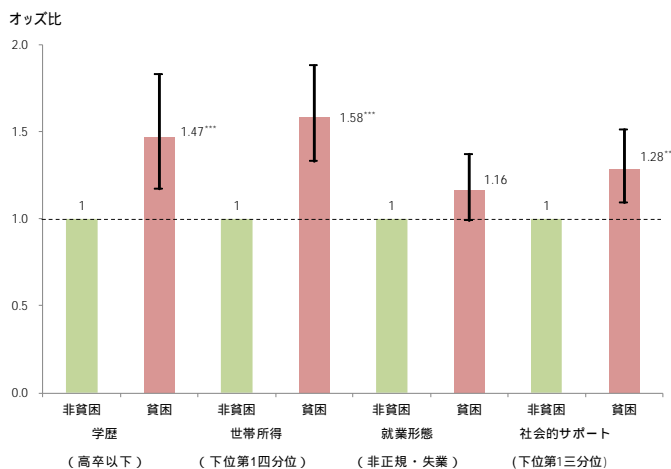
(注) カッコ内は標準偏差。

### (4) 社会経済的要因の長期的影響

この研究からは、以下の3点が明らかになった。第1に、子供期の貧困は、成人期における望ましくない健康行動につながる可能性が高い。とりわけ喫煙は、教育を媒介する形で子供の貧困の影響を受ける(図3)。第2に、子供期の貧困の影響には、子供期以降のさまざまな要因によって媒介されず、成人期の健康行動を直接左右する面が少なくない。第3に、初職が不安定な就業状態であれば、その後にメンタルヘルスの悪化する傾向が、特に男性において明確に確認できる。

子供期の貧困が成人期の健康にまで長期的な影響を及ぼすことは先行研究でも明らかにされてきたが、日本でもその傾向は明確に存在する。社会経済的要因も世代間継承

図3 子供期の貧困と子供期以降の社会経済的要因・社会的サポートとの関係





をする傾向があるので、健康格差の連鎖を断ち切るためには、「子供の貧困」問題の解決が最優先の政策課題であることが強く示唆される。特に、子供期の貧困が子供期以降のさまざまな要因によって媒介されず、成人期の健康行動にそのまま影響する度合いが強いという事実は、政策介入の時期をできるだけ前倒しする必要性を示している。

一方、初職がその後のメンタルヘルスをかなり規定するという事実は、非正規雇用がさまざまな面で不利となり、しかも、いったん非正規になると正規への転化が極めて難しいという労働市場の問題点を、労働者の健康という観点から提起している。社会政策面では、正規雇用をデフォルトとした各種制度を見直す必要がある。特に、社会保険などの面で非正規雇用が不利になる状況を改善するため、厚生年金や組合健保など被用者保険の適用範囲拡大などを検討すべきであろう。

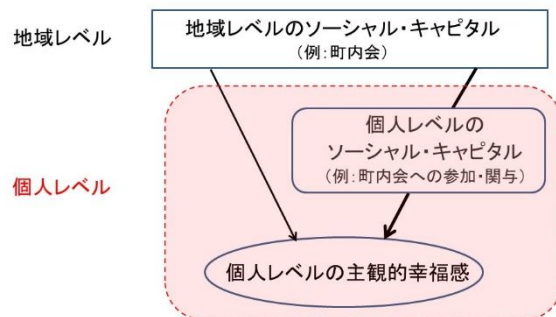
#### (5) ソーシャル・キャピタルと健康・主観的厚生

この研究からは、以下の3点が明らかになった。第1に、個人レベルのソーシャル・キャピタルと健康とのプラスの相関は、異時点間で変化しない個人属性の影響を取り除くと、クロスセクション分析や前向きコホート分析の結果に比べて幾分か小さくなる。第2に、その小さくなる度合いはソーシャル・キャピタルのタイプによって異なる。ボンディングは健康と有意な関係を維持するが、ブリッジングの場合は、参加に個人の意思が大きく関わるためか、有意ではなくなる。第3に、地域レベルのソーシャル・キャピタルと幸福感との関係は、そのかなりの部分が個人レベルのソーシャル・キャピタルによって媒介される(図4)。

ソーシャル・キャピタルと健康とのプラスの相関は過大評価される可能性が高く、ソーシャル・キャピタルに健康増進効果を過度に期待すべきではない。とりわけ、個人レベルのソーシャル・キャピタルは内生変数的な性格を持っており、健康との間に観測される相関の解釈には慎重であるべきである。

しかし、所得格差の拡大や貧困化がソーシャル・キャピタルの形成や維持を阻害し、それが健康面でマイナスの影響を及ぼすという経路があるとすれば、ソーシャル・キャピタルは再分配政策の健康への影響を媒介する重要な役割を果たしていることになる。また、地域レベルのソーシャル・キャピタルの健康へのメリットの大半が、個人レベルでのアクセスや関与があって初めて実現するという事実も無視できない。自治体が町内会活動や市民サークルを支援し、住民に参加を働きかけたり、情報を提供したりすることで、意外と低いコストで住民の健康促進につながる可能性が示唆される。

図4 地域・個人レベルのソーシャル・キャピタルと幸福感(概念図)



#### (6) 多次元的貧困と健康

この研究からは、以下の3点が明らかになった。第1に、一般的な健康状態の把握にとって、貧困の次元を所得に限定せず、教育などその他の次元に拡大することが重要である。第2に、多次元的貧困を貧困の重なり度合いを重視して定義するほど、健康状態が悪い個人を見つける確率が高まるが、カバレッジが狭まるというトレード・オフの関係が統計的にも確認される。第3に、多次元的貧困は、多くの次元の貧困を「積集合」的に捉えるより、「和集合」的に捉え、次元を広げて貧困に陥る可能性を考えるほうが有益な場合が多い。

ここでは、少なくとも一般的な健康状態の把握の場合、貧困の次元を所得に限定すべきでないことが最も重要な政策的含意となっている。もちろん、所得面の貧困はきわめて重要な判断材料であるが、それだけを見ていると健康面で問題を抱えている人を政策的に見落としてしまうことになる。

しかし、多次元的貧困の定義に際しては、健康状態との関連性と貧困のカバレッジというトレード・オフが存在し、政策判断に委ねられるところが多い。本研究でも最適な定義を提示しているわけではないが、トレード・オフの形状を「多次元的貧困の有効フロンティア」で評価する限り、貧困は「狭く」捉えるより、「広く」捉えたほうが健康問題を考えるうえで有益だと考えられる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 33件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 Takashi Oshio and Mari Kan	4. 巻 233
2. 論文標題 Which is riskier for mental health, living alone or not participating in any social activity? Evidence from a population-based eleven-year survey in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Social Science & Medicine	6. 最初と最後の頁 57 ~ 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2019.05.049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Takashi Oshio and Mari Kan	4. 巻 19
2. 論文標題 Educational level as a predictor of the incidences of non-communicable diseases among middle-aged Japanese: a hazards-model analysis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Public Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12889-019-7182-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Takahshi Oshio	4. 巻 41
2. 論文標題 Is a positive association between female employment and fertility still spurious in developed countries?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Demographic Research	6. 最初と最後の頁 1277 ~ 1288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4054/DemRes.2019.41.45	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Takahshi Oshio	4. 巻 18
2. 論文標題 Exploring the health-relevant poverty line: a study using the data of 663,000 individuals in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal for Equity in Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12939-019-1118-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio, Emiko Usui, and Satoshi Shimizutani	4. 巻 -
2. 論文標題 Labor force participation of the elderly in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Courtney C. Coile, Kevin Milligan, and David A. Wise eds., Social Security Programs and Retirement around the World: Working Longer, The University of Chicago Press (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 163~178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahshi Oshio	4. 巻 -
2. 論文標題 Lingering Impact of starting working life during a recession: health outcomes of survivors of the "Employment ice age" (1993-2004) in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20190121	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio, Satoshi Shimizutani, and Akiko S. Oishi	4. 巻 56
2. 論文標題 Examining how elderly employment is associated with institutional disincentives in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2020.101078	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio	4. 巻 -
2. 論文標題 Association between area-level risk of job instability and workers' health: a multi-level analysis using population-based survey data from Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mika Aizawa, Seiichi Inagaki, Michiko Moriyama, Kenichiro Asano, and Masayuki Kakehashi	4. 巻 14(12)
2. 論文標題 Modeling the natural history of fatty liver using lifestyle related risk factors: Effects of body mass index (BMI) on the life course of fatty liver	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0223683	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 下巻
2. 論文標題 人間の尊厳と人文社会科学の挑戦 - 原爆被害者「生活史調査」を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 加藤泰史・小島毅編『尊厳と社会』下巻、法政大学出版局 (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 3~30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 6
2. 論文標題 アメリカのデモクラシーと社会福祉	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 後藤玲子・新川敏光編『新・世界の社会福祉』第6巻、旬報社 (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 26~61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 70(3)
2. 論文標題 われわれは福祉国家の「現実的ユートピア」を描けるだろうか - 原爆被害者運動を手がかりとした日米比較分析の視座 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 227~246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 上巻
2. 論文標題 ワーク・ライフ・バランスと公共的相互性 - 二元論的視座をとることの意味 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大曾根寛・森田慎二郎・金川めぐみ・小西啓文編 『福祉社会へのアプローチ 久塚純一先生古希祝賀[上巻]』成文堂(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 553 ~ 570
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio and Kan Mari	4. 巻 28
2. 論文標題 Does social participation accelerate psychological adaptation to health shocks? Evidence from a national longitudinal survey in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Quality of Life Research	6. 最初と最後の頁 2125 ~ 2133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11136-019-02142-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio and Satoshi Shimizutani	4. 巻 51
2. 論文標題 Health capacity to work and its long-term trend among the Japanese elderly	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 76 ~ 86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2018.12.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masashige Saito, Naoki Kondo, Takashi Oshio, Takahiro Tabuchi and Katsunori Kondo	4. 巻 16
2. 論文標題 Relative Deprivation, Poverty, and Mortality in Japanese Older Adults: A Six-Year Follow-Up of the JAGES Cohort Survey	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 182 ~ 182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph16020182	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Takashi Oshio and Kan Mari	4. 巻 118
2. 論文標題 Preventive impact of social participation on the onset of non-communicable diseases among middle-aged adults: A 10-wave hazards-model analysis in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Preventive Medicine	6. 最初と最後の頁 272 ~ 278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpmed.2018.11.016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio	4. 巻 18
2. 論文標題 Association between successful smoking cessation and changes in marital and job status and health behaviours: evidence from a 10-wave nationwide survey in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMC Public Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12889-018-5970-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio and Kan Mari	4. 巻 16
2. 論文標題 Impact of parents' need for care on middle-aged women's lifestyle and psychological distress: evidence from a nationwide longitudinal survey in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Health and Quality of Life Outcomes	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12955-018-0890-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio, Akiomi Inoue, and Akizumi Tsutsumi	4. 巻 60
2. 論文標題 Associations among job demands and resources, work engagement, and psychological distress: fixed-effects model analysis in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Occupational Health	6. 最初と最後の頁 254 ~ 262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1539/joh.2017-0293-0A	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣誠一	4. 巻 69
2. 論文標題 高齢女性の貧困化 マイクロシミュレーションによる将来推計	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 統計	6. 最初と最後の頁 51～54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣誠一	4. 巻 13
2. 論文標題 将来の高齢者の年金額シミュレーション分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊個人金融	6. 最初と最後の頁 57～67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 1140
2. 論文標題 思想の言葉	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 2～6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 1140
2. 論文標題 <公共的相互性>の論理とかたち	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 82～99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 394
2. 論文標題 アローとセン 社会的選択理論の成立とその批判的展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田政治経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 30～40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤玲子	4. 巻 -
2. 論文標題 環境の経済哲学序説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宇佐美誠編著『気候正義』（勁草書房）（図書所収論文）	6. 最初と最後の頁 163～184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Reiko Gotoh	4. 巻 16
2. 論文標題 Can we draw a "alistic utopia" toward publicly reciprocal welfare state?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Social Work and Society International Online Journal	6. 最初と最後の頁 1～11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Reiko Gotoh and Naoki Yoshihara	4. 巻 76
2. 論文標題 Securing basic well-being for all	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Review of Social Economy	6. 最初と最後の頁 422～452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00346764.2018.1529331	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 臼井恵美子・小林美樹	4. 巻 69
2. 論文標題 妊娠知識が出産に対する主観的期待に与える影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 227 ~ 241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Oshio Takashi	4. 巻 18
2. 論文標題 Which is more relevant for perceived happiness, individual-level or area-level social capital? A multilevel mediation analysis	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Happiness Studies	6. 最初と最後の頁 765 ~ 783
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10902-016-9752-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio and Mari Kan	4. 巻 100
2. 論文標題 The dynamic impact of retirement on health: evidence from a nationwide ten-year panel survey in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Preventive Medicine	6. 最初と最後の頁 287 ~ 293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpmed.2017.04.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio and Emiko Usui	4. 巻 24
2. 論文標題 Informal parental care and female labour supply in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Applied Economics Letters	6. 最初と最後の頁 635 ~ 638
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13504851.2016.1217303	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio, Akiomi Inoue, and Akizumi Tsutsumi	4. 巻 7
2. 論文標題 Examining the mediating effect of work-to-family conflict on the associations between job stressors and employee psychological distress: a prospective cohort study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e015608
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2016-015608	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio, Akiomi Inoue, Akizumi Tsutsumi, Tomoko Suzuki, and Koichi Miyaki	4. 巻 59
2. 論文標題 The reciprocal relationship between sickness presenteeism and psychological distress in response to job stressors: evidence from a three-wave cohort study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Occupational Health	6. 最初と最後の頁 552 ~ 561
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1539/joh.17-0178-0A	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio and Emiko Usui	4. 巻 49
2. 論文標題 How does informal caregiving affect daughters' employment and mental health in Japan?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 1 ~ 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2018.01.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio	4. 巻 18
2. 論文標題 Widening disparities in health between educational levels and their determinants in later life: evidence from a nine-year cohort study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMC Public Health	6. 最初と最後の頁 278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12889-018-5181-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio, Akiomi Inoue, and Akizumi Tsutsumi	4. 巻 60(3)
2. 論文標題 Associations among job demands and resources, work engagement, and psychological distress: fixed-effects model analysis in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Occupational Health	6. 最初と最後の頁 254 ~ 262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1539/joh.2017-0293-0A	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Oshio and Mari Kan	4. 巻 16
2. 論文標題 Impact of parents' need for care on middle-aged women's lifestyle and psychological distress: evidence from a nationwide longitudinal survey in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Health and Quality of Life Outcomes	6. 最初と最後の頁 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12955-018-0890-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Emiko Usui, Satoshi Shimizutani, and Takashi Oshio	4. 巻 -
2. 論文標題 Health capacity to work at older ages: evidence from Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 David A. Wise ed., Social Security Programs and Retirement around the World: The Capacity to Work at Older Ages, The University of Chicago Press (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 219 ~ 241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seiichi Inagaki	4. 巻 6
2. 論文標題 Dynamic microsimulation model of impoverishment among elderly women in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Physics	6. 最初と最後の頁 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fphy.2018.00022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 Miki Koyabashi and Emiko Usui	4. 巻 15
2. 論文標題 Breastfeeding practices and parental employment in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Review of Economics of the Household	6. 最初と最後の頁 579 ~ 596
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11150-014-9246-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 21件)

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Publicness and pemocracy
3. 学会等名 Human Development and Capability Association Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Formulation of public reciprocity as a 'Realistic Utopia'
3. 学会等名 Asian Conference on the Philosophy of the Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 大河口マンとしての経済学：塩野谷祐一の大いなるチャレンジ
3. 学会等名 シンポジウム「経済哲学とは何であるのか？」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤玲子・神林龍
2. 発表標題 外に出る／家でくつろぐ ‘2018ケイパビリティ調査’ が写した国立
3. 学会等名 この先の福祉交通について考えるシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 責任を負うこと、責任を問うこと：国家補償の論理と意味
3. 学会等名 第3回責任の研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 The elderly's employment situation in China, Japan, and Singapore: Evidence from the longitudinal panel surveys
3. 学会等名 Singapore-Japan Academic Forum on Ageing（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Seiichi Inagaki
2. 発表標題 The effect of the introduction of mandatory Category 3 contributions on the poverty rate for the elderly in Japan
3. 学会等名 International Workshop on Pension System Reform in China（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲垣誠一
2. 発表標題 老後生活の経済 マイクロシミュレーションによる将来推計
3. 学会等名 人口学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Seiichi Inagaki
2. 発表標題 Experience of Micro-simulation Modelling in Japan
3. 学会等名 The International Workshop of China-Japan-Korea Micro-simulation Research & The Launch Event of Personal Income Tax Micro-Simulation Research Reports (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤玲子
2. 発表標題 社会科学の殿堂 - 一橋大学改革論
3. 学会等名 第6回一橋大学政策フォーラム「人文学・社会科学におけるインパクトとは何か？」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Can we draw a 'realistic utopia' toward publicly reciprocal welfare state?
3. 学会等名 International Conference of Social Progress for What (Whom) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 State compensation for atomic bomb sufferers and call for the total abolishment of nuclear weapons
3. 学会等名 3rd World Social Science Forum (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Gotoh and Hideyuki Kobayashi
2. 発表標題 Independence in daily living of individuals: Formulation with positional objectivity and empirical analysis
3. 学会等名 2018 Cambridge Capability Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 The non-identity problem and the social choice procedure - Revisit to the intergenerational equity
3. 学会等名 The 14th Social Choice and Welfare Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Gotoh
2. 発表標題 Can we draw a "realistic utopia" toward publicly reciprocal welfare state? - A comparison of welfare programs between Japan and USA
3. 学会等名 International Conference on Ambivalences of the Rising Welfare Service State (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 Are Japanese men of pensionable age underemployed or overemployed?
3. 学会等名 16th International Conference on Pension, Insurance and Savings (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 Health capacity to work at older ages: Evidence from Japan
3. 学会等名 Workshop on Technology and Aging Workforce (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tsunao Okumura and Emiko Usui
2. 発表標題 Pension expectations and household portfolio choice of the elderly in Japan
3. 学会等名 Japan-Singapore Academic Forum on Ageing (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 Public pension and the elderly's labor supply
3. 学会等名 Japan-Singapore Health and Labour Policy Roundtable (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 Sharing housework between husbands and wives: How to improve marital satisfaction for working wives in Japan
3. 学会等名 World Social Science Forum (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emiko Usui, Satoshi Shimizutani and Takashi Oshio
2. 発表標題 Are Japanese men of pensionable age underemployed or overemployed?
3. 学会等名 日本経済研究センター 研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 Sharing housework between husbands and wives: How to improve marital satisfaction for working wives in Japan
3. 学会等名 アジア学術会議 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 日本の高齢男性の働く余力と条件整備について
3. 学会等名 「くらしと健康の調査」報告会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 「くらしと仕事に関する調査」に基づく、少子化対策提言に向けた諸研究
3. 学会等名 第23回関西<知と業>のフロンティア
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 「くらしと仕事に関する調査」に基づく、少子化対策提言に向けた諸研究
3. 学会等名 日本女子大学現代女性キャリア研究所セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 「くらしと仕事に関する調査」に基づく、少子化対策提言に向けた諸研究
3. 学会等名 第84回国立大学共同利用・共同研究拠点 知の拠点セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsunao Okumura and Emiko Usui
2. 発表標題 Pension expectations and household portfolio choice of the elderly in Japan
3. 学会等名 第3回Household Financeコンファレンス(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Seiichi Inagaki
2. 発表標題 Microsimulation of the impoverishment of elderly women in Japan
3. 学会等名 The 6th World Congress of the International Microsimulation Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Seiichi Inagaki
2. 発表標題 Microsimulation in Japan
3. 学会等名 AESCS 2018 and IMA Asia-Pacific Regional Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takashi Oshio and Emiko Usui
2. 発表標題 The effects of providing elder care on daughters' employment and mental health in Japan
3. 学会等名 Population Association of America 2017 Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 日本の労働市場における年金世代男性のさらなる貢献の可能性
3. 学会等名 国立大学附置研究所・センター長会議 第三部会シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 Breastfeeding practices and parental employment in Japan
3. 学会等名 一橋大学・中国人民大学共催第7回アジア政策フォーラム（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 宇佐見耕一・小谷眞男・後藤玲子・原島博編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 284
3. 書名 世界の社会福祉年鑑2019	

1. 著者名 小塩隆士	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 280
3. 書名 くらしと健康	

1. 著者名 宇佐見耕一・岡伸一・金子光一・小谷眞男・後藤玲子・原島博編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 380
3. 書名 世界の社会福祉年鑑2018 2019年度版 18集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金子 能宏  (Yoshihiro Kaneko)  (30224611)	日本社会事業大学・社会福祉学部・教授    (32668)	
研究分担者	稲垣 誠一  (Seiichi Inagaki)  (30526380)	国際医療福祉大学・赤坂心理・医療福祉マネジメント学部・教授    (32206)	
研究分担者	神林 龍  (Ryo Kambayashi)  (40326004)	一橋大学・経済研究所・教授    (12613)	
研究分担者	臼井 恵美子  (Emiko Usui)  (50467263)	一橋大学・経済研究所・准教授    (12613)	
研究分担者	後藤 玲子  (Reiko Gotoh)  (70272771)	一橋大学・経済研究所・教授    (12613)	